

佐野市立犬伏小学校



校長室だより



令和5年度 第12号
R5.9.11
館野 道明

夏休み明け 増えていってほしいのは…



“自主考動力”

自分で考えて行動する子です。「自主考動(じしゅこうどう)力」、これは私の造語ですが、自主考動できる力が身に付いていくよう、児童の背中を押していきたいと考えています。

今年4月から、本校の児童の様子を見ていて、素直で、勤勉だなと感じています。先生に言われたことを一生懸命やり遂げようとしたり、清掃や当番活動も黙々と取り組んだりすることができる児童がとても多いなど、つくづく感心しています。

しかし、それだけでは物足りません。言われたことを言われたとおりにやるだけでなく、主体的に物事を考え、実際に自分から行動してみるようになると、もっと学校が楽しくなってくると思っています。

このことは、2年生のある女子児童の行動が教えてくれました。

夏休み前最終日、その児童が、手に B5サイズくらいの紙をもって登校してきました。

それは、自作の賞状でした。なんと校長である私への「むくろじ賞」でした。

「校長先生は、いろいろな子に『むくろじ賞』を渡しているけど、校長先生は『むくろじ賞』をもらえないのかなあ」と考えたそうです。そこで、それなら自分が賞状をつくって渡そうと考えたそうです。家の人に相談したわけでもなく、自分で考え、本当に実行したということです。手作りの『むくろじ賞』を受け取ったときは、思わず目頭が熱くなりました。忘れられない一瞬となりました。

だれかに言われてやったのではなく、自分で考えてやったことに価値があると思います。

実は、この原稿を書いている最中にも、4年生の児童が自作の『むくろじ賞』を校長室に届けてくれました。やさしさの輪が広がっていることに、うれしさが込み上げてきました。

また、先日創立150周年記念にやってみたいことを考えて、校長に提案してほしいと伝えたところ、昼休みに3年生の男子数名が目を輝かせながら校長室にやってきて、

「体育館に全校児童が集まってクイズ大会がしたいです。」

「みんなで犬伏小の誕生日おめでとうのカード書いて学校中に貼ったらいいと思います。」

「校舎全部をつかってゲーム大会がやれたらいいなと思います。」

と興奮しながら訴えてきました。

さらに、2年生のあるクラスでは、「おばけやしきがやってみたいな。」

「みんなでパーティーがしたいな。」「みんなで遊びたいな。」などの意見も出てきたそうです。

校長からの投げかけに、すぐに反応して、自分たちで考えたことを伝えに来てくれたことに驚くとともに、うれしくなりました。児童の発意・発案によるこれらの企画をぜひ実現させ、お子さんたちに成就感や達成感を味わわせることができるよう尽力していきたいと考えています。



おめでとう!! 4年 女子

第47回ピティナ・ピアノコンペティション 地区本選・第二次予選 入選
東日本栃木 地区本選進出 本選奨励賞

